

北海道教育推進会議（第9期第10回） 議事録

1 日時

令和5年(2023年)7月14日(金) 10:30～11:30

2 場所

北海道第二水産ビル 4階 4F会議室

3 議案

令和4年度(2022年度)北海道教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書(原案)について

4 会議資料

- (1) 【資料1】第9回北海道教育推進会議(書面開催6/7)における委員意見について
- (2) 【資料2】「令和4年度点検・評価報告書」原案
- (3) 【資料3】令和4年度(2022年度)点検・評価結果一覧

5 出席者

○ 北海道教育推進会議委員

大野会長、杉本委員、久保田委員、森田智也委員、森田聖吾委員、朝倉委員、中村委員、武田委員

● 事務局

伊賀総務政策局長、村上生涯学習推進局長、川端学校教育局長、山城指導担当局長、齊藤道立学校配置・制度担当局長、堀籠特別支援教育担当局長、伊藤生徒指導・学校安全担当局長、相川ICT教育推進局長、谷垣教職員局長

菅野文化財・博物館課長、遠藤義務教育課長、高橋学力向上推進課(兼)ICT教育推進課長、今村健康・体育課長、松橋教職員育成課長、相馬高校教育課長、手塚道立学校配置・制度担当課長

教育政策課：荒川課長、伊勢課長補佐、川端主幹、米田主査、中本主査、横尾主査、清水主事

6 内容

(伊勢課長補佐)

- 定刻となりましたので、ただ今から、第9期第10回北海道教育推進会議を開会いたします。私は、教育政策課の伊勢と申します。よろしくお願いたします。

小学校長会の森田委員がまだ来られていないのですが、学校に確認したところ、少し遅れるということでございますので、あらかじめ御了承いただければと思います。

まず、本日の会議の出席状況ですが、森田委員を含めまして、委員総数の2分の1以上である8名の委員の御出席が見込まれますので、会議は成立していることを報告いたします。それでは開会に当たりまして、総務政策局長の伊賀より御挨拶申し上げます。

(伊賀総務政策局長)

- おはようございます。会議の開会に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。
皆様におかれましては、大変お忙しい中、また若干涼しくはなりましたが暑い中、お集まりいただきまして感謝申し上げます。また、昨年度の会議におきましては、今年度から実施しております北海道教育推進計画の策定に当たりまして、長い間多大な御協力を賜りまして誠にありがとうございました。
本日の会議では、前回会議を書面開催とさせていただきます北海道教育委員会活動状況に関する点検評価について御審議をいただくこととしております。
この点検評価は、教育基本法の改正に伴いまして、平成20年度から実施しております。15年ぐらい経つわけではございますけれども、15年前はPDCAサイクルに基づいた評価が始まったぐらいのところであり、データや数字に基づいた評価というものがあまり行われなかった時代でございました。
現在は、PDCAサイクル作業に基づいて、データや指標を用いながら評価をするようになり、当時と比べると相当しっかりと評価できるようになったと思っております。
ただ、検討、改善の余地は色々あると思いますので、引き続き、皆様の御協力をいただき、北海道の教育を良くしていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。
本日、書面開催によりいただきました御意見を踏まえ、原案として全体をまとめましたので、限られた時間の中で恐縮ですけれども、忌憚のない御意見をいただければと思っております。
今後の予定ですけれども、次回8月の会議において報告書として最終案をお示しする予定ですので、引き続き御協力をお願いいたします。
簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(伊勢課長補佐)

- 次に、5月から6月にかけて、委員の異動がありましたので、お知らせします。お手元にございます本日の会議の出席者一覧を御覧いただきたいと思っております。
上から4番目に掲載されておりますが、新十津川町教育委員会教育長の久保田委員が就任してございます。続きまして、札幌市立北園小学校長の森田智也委員が就任してございます。次に、本日よりリモートによる出席になっておりますが、旭川市立忠和中学校長の森田聖吾委員が就任されてございます。同じく本日都合により欠席になっておりますが、西森建設株式会社取締役の菊川委員が就任されておりますので、お知らせをいたします。
なお、立命館慶祥中学校・高等学校の江川委員におかれましては、本年4月1日付で、大阪府のはつしば学園小学校への人事異動により退任されておりますので、お知らせをいたします。
では、最後に、本日の流れを御説明いたします。本日はこの後、北海道教育推進計画についての報告が1件、令和4年度点検評価に関する議事が1件となっております、終了時刻は概ね11時半を予定しております。長時間となりますが、よろしくお願いいたします。
初めに、北海道教育推進計画（2023年度～2027年度版）について事務局より報告をいたします。

(荒川教育政策課長)

- 教育政策課長の荒川でございます。先ほど局長からも申し上げましたが、令和3年度から2年間にわたり、新たな北海道教育推進計画の作成に御協力を賜り、誠にありがとうございました。本年3月30日に策定されました計画につきましては、ホームページで公表しておりますが、このたび冊子も出来上がりましたので、先に郵送で皆様にお配りさせていただきました。
また、関係機関や学校等にも配付しているところです。
引き続き、本計画に基づき、本道の教育課題の解決と地域創生の実現に向け取り組んでまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

(伊勢課長補佐)

- それでは議事に入りたいと思います。ここからの議事進行は大野会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いたします。

(大野会長)

- それでは、本日の審議の進め方ですが、まず、令和4年度の点検評価について、書面会議でいただいた皆様からの御意見、御質問の対応状況の事務局説明の後に、皆さんから御意見をいただき、事務局から回答する形で進めてまいりたいと思います。
なお、点検評価の原案については、本日が最後の意見聴取の場となりますので、その点を踏まえて、御意見をいただきたいと思います。
時間配分の目安については、前半、施策項目の1-1から16、ここで1回区切らせていただきたいと思います。後半は、施策項目の1-17から30まで、それぞれ20分程度協議を設けたいと思います。時間配分については、私の方で調整しながら進行しますので、御協力よろしくお願いたします。
それでは、点検評価報告書について事務局から説明をお願いします。

(荒川教育政策課長)

- まずお手元の資料について御説明いたします。資料1を御覧ください。
6月7日に書面で開催されました会議での素案に対する各委員からの御意見とそれに対する回答をまとめた資料になります。
続きまして資料2を御覧ください。こちらは点検・評価報告書の「原案」となります。報告書原案は大きく三つのパーツで構成しておりまして、第1章は「教育委員会の概要」「法規・規則等の制定」「計画等の策定状況」「教育委員会及び学校等への情報提供、指導・助言、援助の状況」など北海道教育委員会の令和4年度の活動状況を取りまとめておりますので、後ほど御覧ください。
第2章は、令和4年度の北海道教育推進計画、こちらは旧計画となりますが、こちらに掲げる施策項目31項目の推進状況を取りまとめております。なお、素案からの修正箇所には下線を引いております。
また、現段階で一部実績が判明していない指標がございまして、施策項目「20 学びのセーフティネットの構築」と「25 学校運営の改善」がそれに該当します。
二つの項目につきましては、評価結果を整理中と表示しております。来月には実績値が判明しまして評価結果が固まる予定でございます。
最後に、「資料編」として、「研究指定校の状況」や「教職員の研修一覧」などを取りまとめております。
資料3を御覧ください。こちらは資料2の第2章の各施策項目の評価結果を取りまとめたものとなります。上段の表においては、令和4年度と令和3年度の総合評価の結果の比較を記載しております。前年度と比べ評価結果が上回ったものには、白の上向き三角を、計画を下回ったものには黒の下向き三角を表示しております。
それでは、委員から前回会議でいただきました御意見とその回答について御説明します。
資料1と資料2に基づいて説明いたしますが、時間も限られておりますので、御意見を踏まえて、報告書を修正したものを中心に説明させていただきます。
資料1のページ1に戻って、まずNo. 28の御意見を御覧ください。
全体に係る御意見になりますけれども、「コロナ禍で実績が伸びていないと思われる施策の指標が多数ある。指標によっては実績値が減少し続けている。関連する施策で特別な対応が必要なのか。そのあたりのことがわかる記述をお願いしたい。」という御意見をいただきました。
また、他の委員からも、コロナの影響により施策の進展に影響があったのではないかという意見がいくつか寄せられましたので、御意見を踏まえ、各施策項目の「指標の状況及び評価」の欄、こちら資料2の方に「新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組」について記載する欄を新たに設けました。
なお、実際にこの欄に、今後の取組について記載した項目は12項目、指標の数としては14個となっております。

資料1のページ1に戻っていただきまして、No. 4項目1-2の御意見についてです。資料2としましてはページ58になります。「社会との連携協働による教育課程の実現について、Checkの部分に記載している「学習評価の在り方について～」のところ、なぜ各学校の理解が不十分であると思ったのか、など文章がわかりにくかったので、もう少しわかりやすく記載していただきたい。」との御意見があり、これに対して、「点検・評価報告書への反映」欄を御覧いただければと思いますが、資料2のページ58になりますが「学校における学習評価の理解については、学校訪問等での協議の内容から、不十分である状況が見られること」と追記しました。

次に、資料1のNo. 5施策項目2に関する御意見です。資料2のページ61になります。

「指標②の実績値において、R3と比較してR4は、幼稚園はほぼ同じで、小学校、中学校、高校は下回る結果となっている。受講した教員の割合が低下した要因について、現場の実情を把握した上で、新たな対応策を考える必要がある。」との御意見をいただきました。資料1の回答として、「新型コロナウイルス感染症による集合研修の減少や教員の多忙化などが要因と想定されます。今後は、国立特別支援教育総合研究所や道立特別支援教育センターが実施するオンデマンドを含む研修の情報を提供し、積極的な研修の受講を奨励する通知を发出するなど、教員等の特別支援教育に関する専門性の向上を図ること」とし、資料2のページ61の下段となりますが、「新型コロナウイルスの影響により実績値が伸びなかった指標又は指標に関する今後の取組」及び「d評価に対する今後の取組」欄のとおり、「外部研修の機会の確保」や「オンライン授業関連セミナーの参加対象者に高等学校教諭を加え、積極的な参加を呼びかけること」を追記しました。

なお、資料1のNo. 6及びNo. 7でも類似の御意見をいただきましたので、No. 5と同様に整理させていただきました。

続きまして、資料1のNo. 8に関する御意見です。資料2のページ62から、「国際理解教育の充実について、Checkの②で交流を希望する生徒や学校のニーズに十分に答えられていない、との記載があるが、どのようなニーズがあったのか、記載があるとわかりやすい」との御意見をいただき、こちらにつきましては、交流の際、日程の調整が必要であったことや、生徒数の関係から発言できない生徒も出てしまったため、実施内容の工夫が必要であったとの報告がありました。交流のマッチング方法や時差の少ない交流相手国の拡充といったニーズがあると考えておりまして、ページ62の(1)のCheckに下線のとおり追記しました。

続きまして、資料1のページ2を御覧ください。No. 15 施策項目12、資料2のページ80にありますコミュニケーション能力の育成について、「コミュニケーション能力の育成で重要だと思うのが、話したい伝えたいものがあって、さらに意見を聞きたい交わりたいというステージが必要。児童生徒は、正解よりもっと深い意味をもつ納得解もしくは最適解を持ち合わせていないと、真のコミュニケーションは難しいと思う。」との御意見をいただきました。こちらについては、記載のとおり、コミュニケーション能力の育成に向け、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が必要・重要であり、授業力向上に向けた研修内容の充実や、一人一台端末を活用した授業改善の事例周知などに取り組むこととし、資料2、ページ80の点検評価の記載を下線のとおり修正し、言語活動の充実のCheck及びActionにも下線のとおり追記しております。

施策項目16までの前半部分に関する御意見は、資料1、ページ3のNo. 20までですが、御意見を踏まえて、具体的な資料の内容に修正を加えたものは以上となります。

その他の御意見につきましては、検討の結果を本文の修正まではしないこととしておりますが、担当課の回答を資料1に記載しておりますので参考にしてください。

前半部分に関する説明は以上となります。なお、先ほど大野会長からもお話いただきましたが、次回会議において報告書としての最終案を決定する予定となっております。本日この場でいただきます御意見、また後ほどメール等でいただきます御意見が反映される最後の機会になると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(大野会長)

- ありがとうございます。それではここまでの事務局からの説明に関して御意見を伺いたいと思います。御意見のある方はいらっしゃいますか。挙手のあと、御発言いただければと思いま

す。

(中村委員)

- 中村です。ここまでまとまってきたので、特に、ここにということはないのですが、大野会長の意見にもありますとおり、今回一番の大きな影響は、新型コロナウイルス感染症の影響が甚大だったと思うのですけれども、そういった意見を反映してまとめられたとのことですが、その打ち合わせた過程で、教育庁の中で、どういうふうに評価なり受け止め方の意見交換があったのか、そのあたり御紹介いただければありがたいです。

一番は、実績評価のところ、なかなか悩ましかったと思うのですけれども、そのあたりについて、書きづらい部分も含めてかもしれませんが、特徴的なところがあれば御紹介いただければと思います。

(荒川教育政策課長)

- 新しく作った新型コロナウイルス感染症の影響による今後の取組欄には記載がないのですけれども、例えば、確かな学力の育成につきましては、ちょっとはかばかしくない評価になっているのですけれども、どこまでが新型コロナウイルス感染症の影響なのか、新型コロナウイルス感染症がなくても、我々の対応が至らなかった部分なのかというのは切り分けがなかなか難しいため、そういったものをどう評価するべきかというのはかなり悩ましいと思いました。

それから、社会教育ですとか、あるいは地域との連携などの項目において、どうしても物理的に活動が制約されてしまって、取組が難しいものがあったのですが、オンラインで代替できるものできないものがありますので、そういったものを今後どうするのかということを検討する必要があります。

こちらの点検評価報告書は、単年度評価になっていますので、その観点で基本的に評価しておりますが、コロナ禍を受けての取組の検証といいますか、そういったものは別途、検討していきたいと考えております。

(中村委員)

- もう一点だけお聞きします。資料3の総括表の前年比で見ると、評価が下回った黒三角が多いと思うのです。これらについて言うと、全体的な総括として、新年度は新しい計画なので変わるのですけれども、この部分は、通常ベースに復元するというふうに見ているのか、やっぱりこの部分は、引きずっていくという印象が強いのか、そのあたりはどうですか。

(荒川教育政策課長)

- ものによると思うのですが、資料3の下段の表の黄色い色が着いているあたりを見ていただきますと、前計画の5年間の期間で、評価がどうだったのかということを一覧で記載しております。御覧のとおり、年度が進むごとに評価がだんだんと下がってしまっているという状況になるのですけれども、これは新型コロナウイルス感染症の影響があったものもあると思いますし、前計画は、最終目標を100%に設定している指標もかなりありまして、必然的に年度が進むにつれて伸び率が鈍化して結果的に達成できないというものがありました。

コロナ禍を受けての対応の強化とともに、より適切な評価方法を検討するという両面で対応していこうと思っております。

(大野会長)

- ありがとうございます。それでは、オンラインで参加されている森田聖吾委員、何か御意見や、お気づきになったことなどありますでしょうか。

(森田(聖)委員)

- 学校現場としては、委員さんや荒川課長からありました新型コロナウイルス感染症の影響のところをどう考えるべきなのかというところが、非常に難しい問題であると思って聞いておりました。

例えば、国際理解教育の充実という項目につきましては、コロナ禍の影響で外部講師を招い

での活動などに制限がありましたし、体力運動能力の向上の項目に関わっては、保健体育科の授業や部活動等に色々な制限がありましたので、その影響が数値の低下の要因の一つとみる必要があると思います。一方で、道德教育の充実については、この3年間、各学校において差別や偏見等に繋がらないよう人権教育や思いやりの育成を重視しておりましたので、コロナ禍以前よりも子どもたちの豊かな心の育成が図られたものと思っております。従って、荒川課長が最後お話されていたように、道德教育の充実に関わる目標値が年度ごとに上がって上がることが、評価結果に影響していると思って数値を見ておりました。

(荒川教育政策課長)

- ありがとうございます。まさにそのようなことを我々も感じておりますので、そういったことも踏まえて今後の点検評価ですとか、取組についても考えていきたいと思っております。

(大野会長)

- 新しく就任された委員の方で何かお気づきのことあれば、言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(大野会長)

- それでは、私からですけれども、確かにコロナの影響か、それ以外のことか、切り分けるのが難しいのは、あると思うのですけれども、やっぱり一度振り返っていただいて、コロナ禍の中でどういう対応をしたのか、同じようなことが次も起こらないとは限らないので、その時に、より良い対応ができるように、振り返っていただく作業が必要ではないかと思っております。その過程で、どこまで影響があつて、この指標が伸びなかったのかとか、そういうことをなかなか量的に出すのは難しいと思っておりますが、分析する作業を行っていただければと思います。

伸び率が鈍化しているのであればまだよいのですけれども、明らかに下がっているのもありますので、それについてはどう考えるか、担当の方々に振り返っていただくことが必要かと思っております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が伸びなかった指標に対する今後の取組を記載する欄を設けていただいたのですけれども、これは今後の取組ですので、新しい計画の中で、どういうふうに反映されて具体的に取組まれたのかを、来年度、会議の中で評価していくときに、しっかりと反映されるようにしていただきたいと思っております。

旧計画はこれで終わるのですが、新しい計画が始まりますので、今後の取組として書かれていることは、新しい計画の中で具体的にどう取り組んで進められたのか、そういう意味でPDCAサイクルが、実質的に機能しているようにしていただきたいと思っております。

今の私の意見について、事務局から何かあればよろしくお願ひします。

(荒川教育政策課長)

- 新型コロナウイルス感染症の検証については、おっしゃる通りで、新型コロナウイルス感染症があった場合となかった場合を比較することができませんので、一般的な評価というのは難しいところがあるのですけれども、もし将来新たな感染症が起こったときに、今回の学びを生かせるように、何らかの形で検証するとか、もしくはコロナの感染がきっかけで、GIGAスクール構想が進んだというような面もありますので、後世に生かせるような何らかの検証をしたいと考えておりますので、検討をさせていただきます。

PDCAにつきましても、この点検評価がどうしても1年が終わった後にその1年間の取組の評価をするという形になっているため、なかなか連続性をもって次の評価に生かすというところが見えにくいというのが課題の一つだと思っておりますので、来年度は、令和5年度から始まる新しい計画の評価をすることになるのですけれども、旧計画から引き継いでいるものもありますので、今回いただいた御意見なども反映して、施策に取り組んでいけるように各課努力してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

(大野会長)

- 健康診断と同じだと思います。ちょっと数値が悪くなる傾向があるなという、傾向を見るの

も計画のいいところですから、そういう傾向を見て、将来に備えていただければと思います。
それでは引き続き後半に移りたいと思います。後半の部分について、事務局から説明をお願いします。

(荒川教育政策課長)

- それでは、資料1のページ3を御覧ください。No. 22、施策項目19に関する御意見です。

資料2は、ページ94に該当します。「今後、コミュニティ・スクール本来の目的を果たすことを考えるならば、コーディネーターが研修する場を作るべき、また、校長らにコミュニティ・スクールについて学んでほしいと思う。」との御意見をいただきました。

こちらに対しましては、回答欄のとおり、コミュニティ・スクール導入の促進のためには、コーディネーター育成と管理職の理解促進は重要であることから、引き続き、地域と学校の連携推進協議会等の取組を推進するとともに、今年度から新任校長研修会に「地学協働の推進」を研修項目として位置づけ、北海道CLASSプロジェクト事業の好事例等を普及啓発することで、地域と学校の連携・協働の推進を図ることとしておりまして、資料2のページ94の(1)地域の教育力を活かした学校づくりのActionの欄の下線部のとおり「研修機会の拡充」の対象にコーディネーターを明記しました。

続きまして、資料1のNo. 23、施策項目22に関する御意見で、資料2はページ100となります。「特色ある高等学校、存在感ある高等学校はキャリア教育の先端に行くことができるのではないかな。教員養成の道が開けるようなコースを、全道の教育大学や教員養成のある私立大学と連携し、開設していただけないか。」との御意見をいただきました。回答といたしましては、令和4年度から開始した「北海道高等学校『みらいの教員育成プログラム』」について、今年度は実施地域を道北圏及び道東圏に拡大するとともに、道央圏では他の参加校にも拡大して実施することとしておりまして、資料2のページ100の(2)活力と魅力のある高校づくりの推進のDo及びCheckに同プログラムについて追記しております。

最後に、資料1のページ4を御覧ください。No. 29、こちら全体に対する御意見になります。「施策の指標ごとの評価はもちろん重要であるが、施策や指標間での関連にも目を向ける必要がある。複数の施策や指標の改善を1つのパッケージとして取り組むことができるかもしれない。」との御意見をいただきました。こちらにつきましては、現在、道教委では、子どもたちに望ましい生活習慣や学習習慣、運動習慣を身につけさせるために、関係課連携のもと啓発資料を作成し、学校や家庭等に周知を図るなどの取組を行っておりますが、今後も引き続き御意見を踏まえて、関係課が相互に連携を深めながら取組を進めてまいりたいと思っております。

説明は以上となります。前半同様に皆さんから御意見をいただければと思います。

(大野会長)

- それではここまでの事務局からの説明に関して御意見を伺いたいと思います。御意見のある方、よろしくをお願いします。

(杉本委員)

- 北海道教育大学の杉本でございます。よろしくをお願いします。書面会議での意見に対して丁寧に回答していただきありがとうございました。その回答もすごく納得のいくものだったので、意見を出して良かったと思っております。

後半部というか全体的なことについて、感想的なことを申し上げたいのですが、全体を見渡しますとCで「進展あり」というのが非常に多い。それぞれの項目をよく見ていくと、dが一つでも付いてしまうとCになってしまいます。そうしますと、dがものすごく多いものと、一つしかないもの、一つ二つ程度のものも様々ありますので、これらは分けて考える必要があるかと思いました。それでそのdの項目が多いものは、子どもの学力に関係するものが多いようです。それについて書面会議で、エビデンスに基づく教育課程の改善であるとか、授業改善について意見として出させていただいたところ、心強い回答いただきまして本当にありがたいなと思っております。

あと、評価する時に「大変よくできている」と回答したものしか指標に反映されない項目と、それも低評価に繋がっていると思われる。学校は、その年その年の重点項

目とかがあると思うのですけれども、前年度は新たな取組だから非常に重点的に一生懸命やったのだけれども、今年は昨年ほどではないけれども、ちゃんとやっている、でも昨年と比べると大変よくやっているというよりは、普通にやっているぐらいかなというふうに考えて、謙虚に評価を付ける学校があるのではないかなと思います。そういったものも積極的に拾い上げて、その各学校の努力が見える化できるような評価の在り方を、次の計画の評価のときには考えていくべきかと思いました。

(荒川教育政策課長)

- ありがとうございます。評価方法について御意見をいただきましたが、本当におっしゃる通りで、一つでも d があると a や b があっても c となり「進展あり」になってしまい、一番上の評価が付かないですとか、この評価方法については、なかなか悩ましいところがありまして、次期計画の評価方法についてはそのあたりを少しでも改善したものにできればと思っておりまして、昨年度の会議でも大まかな方針について簡単に説明させていただいたのですけれども、次の会議か、どこかで次の評価の方法の案を説明し、御議論いただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

次に、各学校の取組をなるべく吸い上げられるようにとの御意見ですが、なかなか難しい面がありまして、この点検・評価は、我々教育委員会の取組に対する評価なものですから、各学校の取組を踏まえて、我々教育委員会がどうすべきかという評価になるのかということになるのですけれども、それを考えるに当たって日頃の学校の取組を丁寧に見ていくべきというのは、その通りだと思います。そのあたりは日頃から心懸けていきたいと思っています。

(大野会長)

- 今の評価のことですけれど、6年以上前ですが、私が会長になる前にこの会議に参加していて、評価の考え方が出てきて、そのときの考え方に寄り添って考えると、一つでも d があると評価が落ちるとか、そういう厳しい部分もある一方で、定性評価が、進展ありかなしかで、別途評価することになって、定量的な評価で悪くても、定性的評価で進展ありとすると、少し回復するみたいな評価の仕方になっております。おそらくその時に出された考え方は、d が一つでもある場合は、d ですから、早急に対応して何とかしないと駄目だという意図もあったと思うのです。でもそれに対して有効な対応ができなかったとか、PDCA サイクルがうまく回せなかったとか、そういうことで d のまま放置されることになったと思われまます。その後また別の d が出てくるとかそういうことになる、ある d を片付けても別の d が出てくる、そういうのがあるとなかなか、良い評価が付かない。そこをどう考えるかは、次期の会議で検討していただいたらと思います。

ただ、あまり甘い評価を付けると、上手くいってますみたいな結果になりますので、やはり教育ですから、全ての面で、子どもたちのために良い結果を出す努力をすることが必要です。その点はしっかりと考えてやっていただければと思います。

(荒川教育政策課長)

- ありがとうございます。子どももそうだと思うのですけれども、評価というのは良かったから喜ぶとか、悪かったら落ち込むとかそういうものではなくて、あくまで良かったところも残念ながら上手くいかなかったところも冷静な目で見つめて、次の取組に生かしていくために行うものだと考えております。その時に、a ですとか b ですとか、そういう記号に引っ張られすぎて、本来注目すべきところから目が逸れないような上手いやり方ができないか、考えていきたいと思っています。

(大野会長)

- 他に御意見はないですか。

(朝倉委員)

- 朝倉です。前半部分の意見になります。キャリア教育のところ非常に気になりまして、企業として、子どもたちに何ができるのだろうかというところを考えると、これからの仕事に

ついて子どもたちが将来どんな仕事がしたいとか、どんな夢を持って生きていきたいかっていうところを、小さい頃から教育していきたい、していかなければいけないというふうに思っております。

先ほどからお話しが出たようにコロナ禍のことがありましたので、企業からもインターンシップ等ができませんということでかなり断られたっていうのがここ3年ぐらいだったのかなと思います。

ただこれから、新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたところもありますし、その中でやっぱりこの3年間は本当にちょっと空白の3年間だったというふうに思うのですけれども、子どもたちがちょっと目標を見失って成長していくのではないかとすごく不安に思っています、ですからそのあたりを地域の会社、企業に熱く伝えながらどんどん巻き込んでやっていかなければいけないと思っています。

本当に子どもたちがその会社に行って、どんな仕事をしているのかという体験をしたり、見学をしたり、働く人がどんな仕事をしているのかとか、どんなつらいことがあったとか、どんな嬉しいことがあったかという話を聞けるだけでも子どもたちはすごく自分の将来のことをイメージできたりするのではないかとこのように感じております。

ですから、会社の方も普段の仕事で忙しいとは思っているので、簡単にキャリア教育、「どこかできるところありませんか」というアプローチですと断られてしまうことが多いのかもしれないけれども、やはりそこを事務局等の方が、しっかり訪ねて面と向かってこれからの未来を担う大事な子どもたちに、是非、この仕事を通してこんなにやりがいがある仕事だとかといった話を、若者たちに目標を持って生きていくっていうところを、伝える大事な教育がキャリア教育なのだということを、きちんと会社の方に伝えていただきたいと思います。色々会社にも負担がかかるかもしれませんが、一緒に頑張りましょうということで巻き込んでいくところを、是非、今後やって行きたい、やっていくのがいいと思っています。

私自身も少しずつキャリア教育を企業としてやっているのですけれども、全道にはたくさんの会社がありますので、どんな仕事でも本当に色々やりがいがあると思います。最近はこちらと子どもたちが何か簡単にお金を稼いでとか、悪い道に行く、そういう悲しいニュースも多いので、そうではなく自分たちが生きる意味だとか、社会の役に立つ仕事をしていくのだからというところを少しずつ教育していくといいと思っています。

(大野会長)

○ 今の御意見に対して事務局お願いします。

(相馬高校教育課長)

● 高校のキャリア教育を担当する高校教育課です。今、御指摘があったようにインターンシップの実施率が3年間低下していますので、今年度は、14 教育局に配置しているキャリアプランニングスーパーバイザーが企業を訪問する際に、企業開拓する上で、学校と企業が連携して上手くいっている事例をリーフレットのようなものにまとめ、配布しながら、企業にもキャリア教育に御協力いただきたいということをお願いして回ることにしておりますので、一層、インターンシップ等が推進できるようにしていきたいと考えております。

(大野会長)

○ それでは、久保田委員お願いします。

(久保田委員)

○ 新十津川町教育長の久保田でございます。本道の地域特性を踏まえた特色ある高校づくりということに関しましては、当町に道立の新十津川農業高校がございまして、今、新しい校舎が建ちまして、夏休み明けから新校舎に生徒が入ることになっており、感謝しています。

そういった中において、新十津川においては、高校の実習園に、小学校3年生がさつまいもの栽培の体験に来て、高校生が教えたり、あるいは、小学校5年生の実習田での田植えを、高校の先生が教え、収穫祭を行ったり、生産までの過程を小学校に報告したりしています。

また、新聞にも出ておりましたが、隣の雨竜高等養護学校に雨竜町の中学生がものづくりと

ということで、訪問し交流したりしており、そういう中で、私どもの町と隣町の高等養護学校についてはそういう特色ある活動に取り組んでいる面もあるということで、感じることを御報告させていただきます。

(荒川教育政策課長)

- ありがとうございます。特色ある学校づくりということで、学校間で連携したキャリア教育とか、そういった取組が行われているかと思えます。

先ほど、高校教育課長からお話ありましたが、幅広い分野でもありますので、高校教育課に限らず、各課が連携を図っていくことが必要であることを伝えてまいりたいと考えております。ありがとうございます。

(武田委員)

- 公募委員の武田です。保護者の立場で感じたことを一点お話させていただきます。今週、防災訓練がありまして、子ども引き取り訓練というもので学校に出向いたのですが、今年に関しては、私は先生から認識されていたと思うのですが、去年に関しては、先生に、武田ですと名前を言って、子どもを引き渡すという感じでした。お母さんの顔を覚えていないのかなというような先生の反応がとても気になりまして、というのは、先生の努力というのでもあるのですが、このコロナの状況で学校と保護者との距離がとても開いてしまったというような印象がありました。

私が児童会館で働いていた時に、子どもを保護者に引き渡す時、とても注意を払っておりまして、緊張感を持って子どもを引き渡すということに対して、学校側もこれから配慮していただきたいと思えます。お母さんの顔、お父さんの顔どちらでもいいのですが、先生が特徴を自分でメモしたりとか、全体で撮った写真で覚えさせてもらうとか、今少し信じられないような事件が色々起きていて、起きてからでは遅いので、保護者とお話する機会覚えてくれたら一番ありがたいと思えますが、安全性のところ、これからもっと取り組んでいただけたら保護者は安心して預けられると思えます。

(伊藤生徒指導・学校安全担当局長)

- 学校安全を担当している部署から御説明させていただきます。防災訓練も含めて、子どもが安心して登下校できる関係で、今、特に引き渡し訓練のお話がありましたが、私達の担当の生徒指導・学校安全課では、同じように引き渡し訓練ですとか、登下校の安全について、これまでも同様の通知を出していましたが、今お話を聞いていまして、コロナ禍のここ2～3年で、保護者の顔がよくわからない状況になったということが良くわかりました。

非常に大事なことなので、今日は、小学校、中学校の校長会の代表の先生が来られており、それぞれの学校では、当然配慮されているところでもありますけれども、さらにそういった配慮が進むように、道教委としては、市町村教委を通じてお話をしていきたいと思っております。

今のお話を聞いて、今は少しずつマスクもとれている時期ではありますが、これを一つの良いチャンスとして、学校の先生方と保護者の方がより親密に信頼関係を築けるチャンスの一つとして、引渡しの機会を上手く使っていただけるようにトータルで進めていければいいと思っております、そういった趣旨で私達も取り組んでいきたいと思っております。御意見をいただきまして気づきました。ありがとうございました。

(中村委員)

- 直接、今回の点検評価ではなく、むしろ次の計画の話になるかもしれませんが、先ほどもキャリア教育の質疑がありまして、施策項目4の理数教育に直接絡む話でもありますが、今、北海道で一番話題になっています、半導体の新しい工場のラピダスについて、道庁も組織全体を挙げて戦略的に取り組む動きになっているというふう聞いておりますが、人材をどういうふう、北海道の中で、オールジャパンでもいいのですが、供給できるかという問題が、一番大きいと聞いております。これは経産局が、人材育成のプラットフォームづくりということで、大学、高専等を結集してやるっていうのですが、先日、科学大学の先生が、ラピダスの専務さんと、昔、日立IBMで仕事をしたという関係で講演をいただいたところなのですが、そ

の中で一番印象的だったのは、中学校、小学校の時から半導体とか、IT とか、こういうものに親しんでもらうことが行く行くは高等教育の人材づくりに極めて重要であり、先行している熊本の半導体工場では、小学校、中学校において、半導体の勉強会ですとか、工場見学とか、こういうカリキュラムがスタートしているというお話でした。

ですから北海道も、国策と言われるか、上手くいくかどうか色々議論はあるにしても、せっかくのチャンスなので、従来にない発想で、縦横、色々な施策を総合的に打ち出して、成功に向けてバックアップ、あるいは、そういうものづくりというか、できるといい機会があるから、幸い 25 年に稼働スタートで、本格大量生産は 27 年ということで、次の推進計画にぴったり合うので、是非、次の計画になるかもしれませんが、そういう外部環境に少し適合させた具体的な施策、あるいは他府県等の事例等も取り入れた形で新しい取組も是非取り入れていただければ、これは要望になりますけども、お願いしたいと思います。

(荒川教育政策課長)

- ありがとうございます。時代の波を捉えた若しくは時流の先を読んだ人材育成について御意見をいただいたかと思っております。

(川端学校教育局長)

- 学校教育、主に義務教育を担当しております川端と申します。先ほど、高校のキャリア教育のことが話題になっていて、その時ではなく、やはり小さなときから将来どんな仕事に就きたいかなとか、そういう夢だとか憧れを持つ機会をたくさん味わわせていくことが大事だと思っております。

今回の千歳の工場も北海道の目玉といいますか、千歳や石狩管内だけでなく、北海道全体の子どもたちが、そこに興味を持ったり、誇りを持ったりしていくことは大事だと思いますので、どういう取組ができるかということこれから考えていくこととなりますが、子どもたちが、直接、見に行けなくても、知ることができるとか、何かそういう取組ができないかなということを考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

(大野会長)

- 後半部分の施策についてはよろしいですか。それでは御意見ありがとうございました。改めて、全体を通して、御意見ありますでしょうか。よろしいですか。本点検・評価報告書（原案）について、事務局の方でまとめていただいたものが出てきます。次回会議で皆さんにそれを了承していただくという段取りですので、よろしく願います。

(伊勢課長補佐)

- 大野会長、進行ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、点検評価、次の計画の関係でも様々な御意見をいただき、ありがとうございました。

本日いただいた御意見を踏まえまして、さらに検討を深めていきたいと思っております。

なお、点検評価につきまして、この場で言うことができなかつた場合や言い尽くせなかつた場合、御意見等がございましたら、7月21日までに事務局にメールでお寄せいただければと思っておりますので、よろしく願います。

次回会議についてですが、8月17日木曜日の午後を予定しておりますので、御出席についてよろしく願います。なお、詳細につきましては後日文書にて改めて御案内差し上げたいと思います。

それでは、これで本日の会議を終了いたします。大変御苦労さまでございました。